大戸川流域住民の訴え

1日も早い大戸川ダム建設が住民の願い

芝原町道路の切断状況

昭和57年8月出水状況　　石居橋流失（自動車と人が流される）

平成20年11月

上田上自治連合会 ・ 田上自治連合会 ・ 大鳥居自治会 ・ 牧自治会・ 黄瀬区
大戸川ダム対策協議会 ・ 大鳥居地域開発協議会 ・ 牧町地域開発対策委員会
黄瀬大戸川ダム対策協議会（甲賀市信楽町）

私たちの過去、現在、未来について訴えます

- 心から訴えます！流域住民が安心安全に暮らせる公助を　P2（上田上住民）
- 水没地移転住民大鳥居住民の訴え　P3（大鳥居住民）
- ダム中止は中途半端な問題を生みませんか？(水没地移転住民の女性の立場からの訴え)　P5（大鳥居住民）
- 私の半生と大戸川ダム・・・大戸川ダム建設について水没地移転住民の要望　P7（大鳥居住民）
- 上・下流の流域の人達が、水没予定地の住民と共に苦難に対応してくれた歴史の重みがあるからこそ、集団移転に合意した歴史を忘れないでほしい　P9（大鳥居住民）
- 知事の考えは、一体どこにあるのでしょうか。　P10（大鳥居住民）
- 大戸川下流田上住民の願い　P12（田上住民）
- 大戸川は昔、大荒川 と言われていました　P13 （田上住民）
- 田上羽栗町住民の訴え　P14 （田上住民）
- 大戸川の洪水で途方に暮れた私達の長い苦労と思いをお聞きください　P15 （上田上住民）
- 皆、必死の思いで、当時の滋賀県庁の方に訴えました　P16（上田上住民）
- 苦渋の選択としての集団移転の努力　P17（上田上住民）
- 甲賀市黄瀬住民の訴え　P18 （甲賀市黄瀬区住民）
- 「水七合に砂三合」　P19
- 大戸川の主な水害の記録　P20
- 大戸川の主な水害の写真　P21
- 平成20年7月28日（月）状況　P22
- 非出水時の土砂堆積・雑草繁殖状態　P23
- 早期に大戸川ダム建設を　P24

心から訴えます！
流域住民が安心安全に暮らせる公助を

大戸川下流上田上住民

今、淀川水系河川整備計画案に対する流域府県知事の一言々に注目が集まっておりますので、大戸川流域に住む住民の今の心境を聞いて下さい。

当流域は、昭和28年台風13号、昭和57年台風10号と約30年周期で大戸川の洪水被害を受けています。特に昭和28年の水害では、大戸川の堤防が決壊して濁流が流れ込み、田んぼが一面海のようになった記憶が頭にこびりついています。幸いにも、近年は、当流域では大きな降雨がありません。しかし、私どもは、ここ数年間がその周年に当たっていると強く感じております。

その矢先、去る7月28日には、大津南部推計80mm/hr「記録的短時間大雨情報」が出され大戸川流域に緊張が走りました。私どもも消防活動に長年携わってきましたので、降雨量で大戸川の状況はわかります。今回も大戸川上流の甲賀市の雨量はいかほどかすぐに気になるところでありましたが、幸いにして降雨が少なかったので助かったと胸をなで下ろしました。上流での降雨はおよそ2時間後には目前の大戸川の水位に影響が出てきますので気がかりでなりません。

私どもが、今まで40年間以上願い続けてきたダム建設は未だ実現はしておりませんが、流域住民が安心安全に暮らせる公助（ハード対策）を願ってやみません。
淀川流域の洪水対策の為に、これからも大戸川ダム建設を訴えて参りたいと思っています。

水没地移転住民大鳥居住民の訴え①

滋賀県知事、京都府知事、大阪府知事に訴えます。

先般の新聞等の報道によりますと滋賀県は「大戸川ダム建設に反対」との意向であるように見受けられます。知事におかれましては昨年2月に「大戸川ダムを中断することなく継続して建設願いたい」と国に要望されたり、今年7月には「治水効果などに関する説明が不十分」「ダムは劇薬でほかに方法がない時の最後の手段」などと矛盾する発言をされています。

2年まえまでは一貫して当時の知事を先頭に「早くダムを造れ!」と国に働きかけていた「ダムこそ治水対策だ」との考えとは大きな違いです。嘉田知事のあいまいな発言の真意は何なのでしょうか？　知事が代わるとこれほど行政としての対応が変わるものなのでしょうか?

昭和43年(1968年)予備調査が開始されました。私25歳でした。その時期より大鳥居が約10年の間「賛成」「反対」に二分され精神的にたいへん苦しい時期を過ごしました。

そしてようやく意見一致を見たのです。その理由は何か「田上地域の洪水(昭和28年)の被害を目にし、又洪水の恐ろしさを知っているが故、下流の大戸川の洪水による被害を防ぐために、1200年の歴史有する大鳥居を捨てよう!!」

郷土を愛するこの思いが私どもの歴史を閉じる大きな決断だったのです。

水没地移転住民大鳥居住民の訴え②

　だからこそ、私たちは大戸川流域の住民が安心して暮らせる状況に一日も早くなる為のダム建設を望んでいるのです。

でなければ私たち大鳥居住民は「何のために1200年の歴史を閉じたのだ!」と言いたいです。

時の経過とともに社会情勢、地域環境等々が変わるのは世の常です。

　その時その時の的確な判断での対応はいうまでもありません。しかしこの大戸川ダム建設による治水対策は40年の歴史を費やしています。

　私たち大鳥居住民にとっては40年の長い間背中に乗っかって現在もなお重荷になっているのです。

　だからこの問題は知事が変わったら行政としての対応が変わってもよいというものではありません。

地域住民にとって40年もの間、国や県を信頼してきたのです。

　当事者の住民にとっては行政の事業の継続性は当然あって然るべきです

　国、滋賀県、大津市が行政一体となって大鳥居にダム建設の説明に来たということは滋賀県の嘉田知事や京都・大阪の知事にとっては何の意味も持たないのでしょうか?

　的確なご回答を頂きたいと思います。

ダム中止は中途半端な問題を生みませんか？
(水没地移転住民の女性の立場からの訴え)①

私は３６年前他市から嫁いできました。

そのころ大鳥居ではすでにダムの問題が持ち上がり、義父達は歴史のあるこの地を如何にして郷土のために悔いの無い結果に持っていけるかとの思案の毎日だったようです。

私は仕事や生活のため免許を取り１５キロ離れた瀬田まで狭く荒れた道を通勤や買い物に車を走らせました。

夏は木々が生い茂り、秋は台風で道路が決壊したり土砂で車が埋まって死者が出たこともありました。冬は凍てついて命の危険をいつも身近に感じたものです。

「ダムが出来ればこの県道も付替えられ、２車線になって安心して通れるようになる」そう言ってダムの大切さを話していた義父もすでに亡くなり、夫はあの頃の義父の年齢をはるかにを越えて未だにまとまらぬダム建設のために日々苦悩しています。

最近久しぶりに通った県道はますます木々が生い茂り、通行量も多いので荒れていました。又、付け替え工事が中断された山では岩肌がむき出しになって橋桁が痛々しくさらされていました。

知事はこの状態を知っておられるのだろうか、**「ダム建設を止めることは中途半端な問題を生むだけ」**ではないだろうか？

このまま放棄された工事の始末はどうなるのだろうと不安になりました。

今の県はダムだけではなく生活道路の問題をも含んでいることを視野に入れていないのかと不信に思いました。

豪雨時に千枚岩の岩盤が落下した県道大津信楽線

ダム中止は中途半端な問題を生みませんか？
(水没地移転住民の女性の立場からの訴え)②

大戸川ダム問題は、この地に住んだことの無い流域委員会の方たち有識者の意見やダム建設の推移を経験していない知事の考えだけで左右されるのは私にはとうてい理解できません。

他市から嫁いで来た私ですが、この地に住み大戸川流域の氾濫の歴史を知り、大鳥居移転の苦労を経験したからこそダムの必要性を深く感じています。

先年、滋賀県に初の女性知事が誕生し、県民は勿論マスコミにも大いに話題を呼びました。私も以前嘉田先生の講演を拝聴したことがあり、この方なら生活者の立場から、女性の立場からきっと良い治世をしていただけるものと期待をしておりました。
しかしながら新聞や地元の情報では知事の意見は二転三転として定まらず、日を追う毎に私たち地域住民の思いと反対に向かっているように思われます。

国や県からの申し出により故郷を棄て、県の方針を信じて年月を費やしたことがたった一人、**知事が代われば「今までの事はどうでもよいこと」になるのでしょうか？**
又、知事の信念が定まらないのは個人的な環境論のこだわりや流域委員会への気配りなのでしょうか？
知事には任期があり、今だけのことを考えて任期満了には終わりにすることができますが、私たちはダム建設の結果が出ない限り過去を引きずり今後、起こるかもしれない洪水の不安と戦っていかねばなりません。

知事の確かな判断を期待します。

私の半生と大戸川ダム･･･大戸川ダム建設について水没地移転住民の要望①

ある日突然、平穏な山村に大戸川ダム建設問題が発表された。
当時の町内役員（現自治会）はこの対応に右往左往した、このダムが建設されると1200年余引き継がれてきた我が町が水没するとのこと町民は騒然となるのは当然である。

以降町内では、建設反対、建設の見直し等を訴え続けて戦いが始まった。
私は何時の間にかその戦いの輪の中にいた連日その対応についての対策会議が開催され議論がなされるも現地では予備調査もはじまる。ダム事業は絶対必要、この地が水没する様なダム事業は中止せよ、見直しをとの話し合いが続き30年が経過した。

自治会、家族は分裂状態
予備調査も終わり本格調査に入ると言う情報に町内は騒然永年の対応に疲れた町民はその話し合いに絶対反対派、容認派に分裂し自治会は勿論家族の中でも意見が対立自治会の運営にも事欠く状態が続き重大局面を迎える。

行政のお力添えもあり問題解決にむけて要望書を提出することで事態を収拾することとなった。
要望書の回答は私たちが予想したとおり何一つ納得できるものはなかったがこの問題を解決することで事態を収拾住民は苦渋の決断をした。

私の半生と大戸川ダム･･･大戸川ダム建設について水没地移転住民の要望②

問題解決に取組む中で大戸川が氾濫下流域に大きな被害が発生した事や国家事業の計画の変更のむつかしさ等を勘案住民は苦渋の決断をせまられる。
このことは移転地の神社、お寺の記念の碑や本社本堂の棟札にも記されているところである。ご先祖から引き継いだ1200年余の伝統あるこの地を離れることの辛さは計り知れないものがあり後髪引かれる想いで移転したのである。

30年の戦い一夜で逆転
前述のとおり我々が中止せよ見直しをせよと戦いつづけて30余年ダムは絶対必要、計画変更できないと言い続けてきた行政、我々が涙を流し移転を終了した途端に突然現れた淀川流域委員会なる意見によってこのダムは当面実施をしないとかその必要性がない等々移転住民に何一つ知らされないままである

我々の戦いは、移転は何だったのか納得のいく説明がほしい、このままでは子孫に言い訳が出来ない、私は今、オレオレ詐欺に引っかかった想いでいる。
移転住民に納得のいく説明を
移転住民は何も知らされておらず10年が経過した。われわれは大戸川ダム建設用地として先祖伝来の土地を涙ながらに明け渡したのである。いま移転住民はこのダムの早期建設と今日までの納得のいく経過説明を要望するものである。

上・下流の流域の人達が、水没地の住民と共に苦難に対応してくれた歴史の重みがあるからこそ、集団移転に合意した歴史を忘れないでほしい･･･水没地移転住民

昭和41年頃、ダムの話が持ち上がって以来、私達の生活はダムを巡る話に不安と苛立ちと苦悩の日々でありました。
当時、なぜダムなのか？　なぜこの地なのか？　ダムに代わりうる方法はないのか？と、当然、私達も異を唱えたのであります。

しかし、それは昭和28年8月、9月の水害や、34年の氾濫等過去の何回もの災害を省みた時、大戸川、宇治川、淀川本川の治水の為にはこの地にダムがどうしても必要であり、ダムの代わりを河道の拡幅、河道の掘削等、人家連担した方法で河道改修のみで行うことは非現実的である。下流地域を洪水と渇水の被害から守るのに一番効率的な方法はこの地にダムの建設しか無い･･。
これが昭和53年の当時の建設省のダム建設事業の趣意書であります。
以来、ダム建設に向けて、又環境への影響調査を始めとして国では多くの事業費を投下されました。財政逼迫の折。事業進捗の遅れとか、より効率的なダムへの見直し論議はともかく、未だダムに代わる方法があるのではと、この入口の論議が今行われています。30年前の話です。
河川を考える皆さんや、新しい首長によって何故、話は180度転換して振り出しに戻るのですか？
私達が、ダム建設を合意するに至ったのは、上・下流の流域の人達からいつも、水没する大鳥居の人の合意が先決ですと言って共に対応してくれました。
今や本当に感謝しております。
行政におかれましてもダムありきの話から下流と話をしてほしいと思います。
大鳥居町の40年余の思いは、いろいろ他に出ていますので省きます。

滋賀県知事の考えは、一体どこにあるのでしょうか。①

我々が翻弄された40年間が無駄にならないようよろしくお願いします。（水没地移転住民）

大戸川ダム建設についての最近の新聞報道を見るにつけ、一言言わざるを得ない心境になりましたので、一住民の心情を述べさせていただきます

2007年２月　滋賀県議会
「遊水池などダムの代替策も検討したが、財政・技術的に困難」と、ダム建設容認を打ち出す。
2008年６月２７日
「治水の向上を見込めるなか、ダム以外治水対策を進めるのは技術、時間、財政的にも困難である。
と、建設容認ととれる発言。
2008年６月２９日
「大戸川ダムについて、浸水被害を最小化できるか疑問」と、疑義を呈する。
2008年７月１日
大戸川で、ダム以外の治水対策を検討する意向を示す。
2008年９月３０日　滋賀県議会
淀川水系流域委員会の、大戸川ダム建設を認めないとする最終意見書に対して、方向性は一致していると評価する。
2008年１０月１６日　近畿地方整備局長との会議
大戸川ダム事業から撤退する場合のルールづくりを検討するよう求める。
最近、半年を見ただけでも、新聞の見出し「大戸川ダム揺れる知事　反対？容認？」とあるように、一体どのように考えておられるのか疑問に思わざるを得ません。

滋賀県知事の考えは、一体どこにあるのでしょうか。②

我々が翻弄された40年間が無駄にならないようよろしくお願いします。（水没地移転住民）

そもそも、大鳥居住民としては、ダム建設を要望したのではありません。約40年前、ダム建設の計画が持ち上がってから、長年住み慣れた故郷を離れることは考えられず、住民はずっと反対していました。
しかしながら、国の強い要請があり、京都・大阪の下流域の災害を防ぐためならと断腸の思いで集団移転という苦渋の決断をしました。

ところが、集団移転してから早12年が経つのに、ダム建設事業が進むどころか、もうダムは中止になるのではないかというような危惧すらをもつようにな報道がなされています。
知事の考えも、この半年を見るだけでも180度ぶれているように思えます。国にしろ県にしろ、また流域委員会にしろ、その時々のご都合主義による机上の議論ばかりがなされているように思えてなりません。

知事は就任されて約2年間ダム問題に取り組まれてきましたが、40年間この問題に振り回されてきた一番の地元住民である大鳥居に対して、国はもちろん県からの意見聴取あるいは現況説明が全くありません。住民を翻弄し、軽視する行政に対して強い憤りを覚えます。

対話を重視するということで知事になられたと理解していましたが、住民そっちのけではないでしょうか。
ダムを推進するにしろ中止するにしろ、早急に地元に対して知事の考えを説明し、地元の意見を聴取することを要望します。

なお、もしダム中止という考えであれば、集団移転の依拠するところの大前提が崩れることになり、その対応をどのようにされるのか明確にしていただきたいとおもいます。
我々が翻弄された40年間が無駄にならないようよろしくお願いします。

大戸川下流　田上住民の願い

（水源山地の荒廃）

田上山や甲賀地方の山地は、古文献等によると気温暖多雨の気候条件にも恵まれ、地味もよく肥え、原始時代にはヒノキ、スギ、カシなどがうっそうと茂った大美林地帯であった。このような緑深い水源山地が禿赭崩壊した原因は、この大地は花崗岩が大半で、水に溶けやすい長石が多く含まれているため、豪雨による山津波の発生、木材需要の増加と乱伐、戦国時代の戦火、陶土の乱掘などであります。

（各地の土砂砂害）

荒廃した山地を水源とする大戸川には、洪水毎に大量に土砂が流出してくるため、その合流点(萱尾川、宮川、天神川)付近には、よく土砂が堆積します。そのため各支川は破堤を防ぐため土砂を積み上げ天井川となりました。

然し、本川大戸川は延長が長く天井川化され現状に至っています。それによって洪水時の堤防越流が心配されます。計画高水位に対する余盛高がいくらに設定されて現状はどれ程か伺われます。

上記の天井川は安定した河川とは決して申せません。大戸川ダムの将来の姿は平地河川化でございます。琵琶湖河川事務所では太子、関津、黒津地先の瀬田川河床を3～4m深く掘削、浚渫し流れをよくするという工事をされています。滋賀県知事さんを始め関係役職員、県会議員の各位にお願い申し上げたいのは、大戸川の河床を深く掘り下げ安定した平地河川にする事を忘れないで下さい。

（大戸川の大きな水害の記録）

大津市中野にある常念寺の記録によりますと、宝永5年(1708年)7月から明和8年(1771年)までの64年間に17回の洪水があったとされています。中でも宝永5年7月19日の出水は大戸川の堤防を各所で破壊し、濁流が低地の家屋や水田を呑み込み、中野、芝原両村がほとんど全滅の状態であったと言われています。この地区において現在家屋が高台に建てられているのは再度の難を避けるためです。

（大戸川流域住民の訴え）

大戸川の河川改修を実施されるには莫大な予算を必要とすることは承知しております。今回計画に浮上しました大戸川ダム築造につきましては、洪水ピークをずらす流水型ダムとお聞きしております。下流瀬田川、淀川の治水は申すに及ばず、大戸川の洪水を押えやわらげる治水に効果があると存じ一日も早く建設されますようお願い申し上げます。

大戸川は昔、大荒川と言われていました
大戸川下流　田上住民

- 石居橋、戦後の30年間に2度流失。
- 昭和28年の台風では今村の堤防決壊に加え石居橋流失。
- 昭和57年の台風では市道の浸食、民家の浸水に加え石居橋の流失。
- 100年に一度の雨量に耐える治水整備の甘い計画では大戸川の安全は確保できない。
- 大雨が30年周期だとすると3度目はもう間近！！！？
- 古い資料を見ると大戸川は大荒川との異名があったと記録されている。
- 短時間に増水するので、ダムによるコントロールが不可欠と考える。
- 現在の石居橋の下流は、雑木の繁茂した山と紛う中洲が放置され川床が上がり高水位リスクが放置されたまま ！　管理者不在 ！？

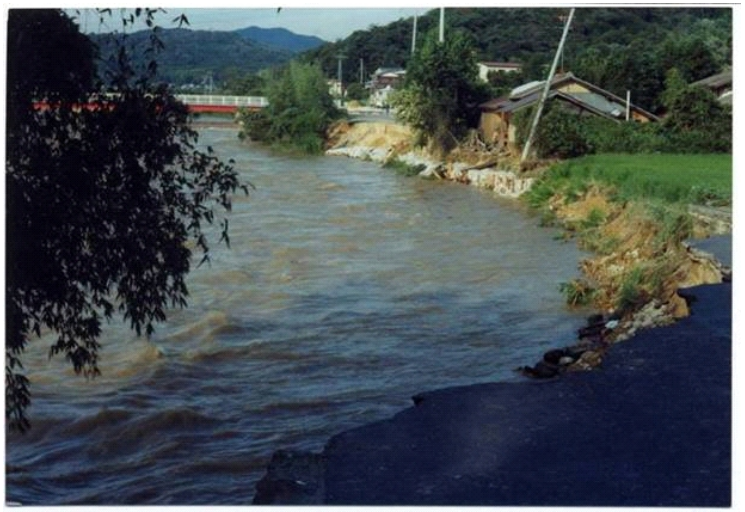
土砂堆積の進む大戸川の状況（田上学区）

大戸川　下流　田上羽栗町住民の訴え

　大戸川は、過去において大きな災害が何度が発生しております。今日、地球の温暖化により大雨が降ったり、又水不足になったりとしている昨今でありますが治水の観点から考えましてもダムが是が非でも必要なのです。

　過去何回となく起きている災害を経験している住民は大雨が降るたびに不安な思いをしています。

　地域住民の生活の安心安全のためにも切なる要望をどうかお聞き入れいただき是非とも大戸川ダム建設をお願いします。



昭和57年豪雨時の田上の状況

大戸川の洪水で途方に暮れた私達の
長い苦労と思いをお聞きください　　下流の上田上住民

私どもは、大戸川の流域に暮らす住民です。
国から淀川水系河川整備計画（案）が示され、その中に、大戸川ダムについて、流水型ダムとして整備をすることが記述され、過去、度重なる洪水を経験してきた者として、大変喜んでおります。

私どもの集落は、昔は殆どの家が専業農家として暮らしておりましたが、隣接する大戸川は、昔からすぐに氾濫をする川であり、集落では、皆、出来るだけ高い場所に家を建てております。

今も恐ろしい記憶として時々、昭和28年の9月の台風を思い出します。あの時は、大変でございました。田や畑は、折角の農作物が駄目になり、多くの家が専業農家でありましたもので、皆、一家で途方にくれたものでございます。

昭和28年9月(台風13号)による被害状況
（大津市羽栗町）

農作業風景

皆、必死の思いで、
当時の滋賀県庁の方に訴えました　　下流の上田上住民

　まだ、大津市になっていない時代で、当時、上田上村が瀬田町に合併してすぐの時代でした。集落の議員や地元の役員と一緒に、滋賀県庁の土木関係の方に毎日の様に、大戸川の対策を切々とお願いしました。

「田上米はおいしいと言われ、この土地が砂地であることと大戸川の流れのお陰と感謝をしていますが、砂地の山に囲まれた地域では、大雨が降れば当然洪水が起こります。大戸川を何とかしてください。」「うまい米を競争するように農協に運び入れ、多くの方に食べて頂くことを誇りとして暮らしておりますが、洪水のたびに、農作物に被害が出て、途方に暮れます。」と泣いて訴える者もおりました。

　そのときに、県の方が、国にこう言われているとおっしゃるのです。
　大戸川は、直接、瀬田川に流れ込むので、洪水対策として水が良く流れるようにすると、多くの川の水が瀬田川に流れ込み、宇治川や淀川があふれてしまう。
だから大戸川は簡単には工事が出来ない。

私どもは、驚きました。どうしたら良いのだろう。

苦渋の選択としての集団移転の努力　　下流の上田上住民

それから、ちょうど万博が大阪で開催されたころだと思います。
「下流に暮らす大阪府や京都府の淀川流域に住む方々のことをもあり、私たち大戸川の流域の者のことだけを考えてはいけない。苦渋の選択だが、大鳥居の集落の方々に全部移転してもらい、集落の場所にダムをつくるしかない。」というお話をお聞きしました。

大鳥居は、皆、昔から水に恵まれ米やお茶などを作り、お互いに助け合いながら暮らしておられる平和で静かな1,200年の歴史がある村。その村の方々が、米やお茶、先祖代々の田畑や地域への愛着、永い歴史や伝統の地を捨ててまで、他の在所に住む者のために集団移転をして下さるのか。

当然、それから、大鳥居に住む方々は集団移転に反対されました。山菜や畑作物、果樹など大鳥居の住民の生活の糧は、今の土地でしか出来ないなどともおっしゃり、返す言葉もありませんでした。

そうした中で、国も県も大戸川の氾濫、淀川の水害を押さえるには、大鳥居にダムを作るしかないとの見解を示され、大鳥居をはじめ地元に住む住民が皆、大変な苦労をした末、大鳥居町は集団移転することになったのです。

また、ダム建設の計画以降、この地域は水没地ということで県道の整備をはじめインフラ整備は大きく制限され、長い間の不便さに地元は大きな迷惑を被ったのであります。

上流　甲賀市黄瀬区住民の訴え

住民の訴え①

　大戸川ダム建設事業は、すでに、大津市の大鳥居地域は全戸が水没することから集落ごと移転をされ、信楽町でも数戸が移転を余儀なくされ、住居だけでなく、山林など所有する多くの財産をダム建設事業に協力されてきました。
住み慣れた地域を出て、新たな生活を強いられた水没地域住民の方々の苦渋の選択をされたお気持ちを考えますと、一日も早い事業の完成により、協力をされた方々の思いに報いることが国・県の責任だと思います。

住民の訴え②

　甲賀市信楽町の大戸川は、昭和28年、また昭和57年の大洪水により甚大な被害を受けましたが、現在も土砂が堆積し、また木々は繁茂するなど十分な管理がなされず、周辺住民は、降雨があるたびに、いつまた大きな災害が起きるかと不安な日々を過ごしております。また、河川改修は下流域からとして、これまで常に氾濫の危険にさらされ続けられてきました。
こうした流域住民の生命財産を守るためにも、大戸川ダムの建設整備により、長年にわたり待ち続けた上流部の河川改修に取り掛かっていただけるものと信じております。

住民の訴え③

　我々大戸川流域住民は、狭隘で幾度も落石事故が発生している県道大津信楽線の改良を管理者である滋賀県に申し入れてきましたが、県はダム建設まで待ってほしいとの一点張りでした。
当時の信楽町住民の多くは県道が整備されるのであればとダム建設を了解し、漸くダム建設事業が着手に併せ県道整備が進められたことを喜んでいましたが、一昨年頃からダム建設の是非にかかる知事発言に戸惑いと不安を抱えています。長年待ち続けてきた県道改良をはじめとするダム関連事業が早期に完成されることを強く望んでいるところであります。

「水七合に砂三合」

大戸川は「水七合に砂三合」と例えられたように、古くから大戸川流域は水害に悩まされてきました。

しかも、 大戸川上流に位置する信楽・田上山地では、藤原京(694年)や平城京(710年)の造営、東大寺、興福寺などの南都七大寺の建立などのために多くの巨木が伐りだされた地域でもあり、明治初期に来日した外国人をはじめ、多くの人たちの手によって、砂防事業が進められてきた流域でもあります。

しかし、昭和に入っても、大戸川の氾濫はおさまらず、昭和28年8月の大豪雨では大災害となり、昭和57年の台風では、石居橋が流失しています。

このように大戸川流域は今もなお、洪水の不安を抱えこんでいる地域なのです。

明治時代の田上山

大戸川の濁水状況

大戸川の主な水害の記録

- 1928年（昭和３年）　決壊し、田畑が30ha埋没
- 1948年（昭和23年）　増水により荒戸橋が流失
- 1953年（昭和28年）　8月14日～16日午後、集中豪雨により、大きな被害
  9月の台風13号で大戸川流域の斧研橋、綾井橋、荒戸橋、堂橋他多くの橋が流失し、今村、萱尾川、宮川他ほとんどの堤防決壊、綾井橋下流の道路において崩落。県道大津信楽線牧千石岩上流右岸の崩落。寺院や民家の床上浸水や田畑への土砂流入、冠水が発生。中島地区の田流失　（写真１）
  この頃、田上中学が、大戸川氾濫により、頻繁に休校となったり、流失した橋をさけて大回りしての通学が頻繁。大雨により、県道大津信楽線に隣接する花崗岩が大きくずれて、県道通行が危険となる。
- 1959年（昭和34年）　伊勢湾台風。天井川であった梨の木川（中野）が決壊し、家屋が10数戸浸水
- 1967年（昭和42年）　大戸川堤防が決壊し、濁流が芝原町の田地に流入
- 1982年（昭和57年）　台風10号により石居橋が流失及び堤防（市道）の浸食、自動車や人が濁流に流され、大騒ぎになった。支流牧町、戸塚川の決壊もあり、牧町家屋で床下浸水。
  （写真2.3.4）

大戸川の主な水害の写真

写真１　　昭和28年9月（台風13号）

写真２　昭和57年8月（台風10号）

写真３　　昭和57年8月（出水時）

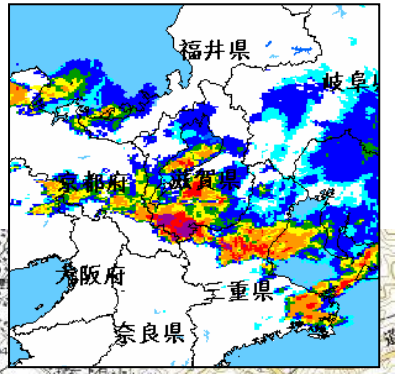
写真４　　昭和57年8月（出水時）

④石居橋上流右岸

⑤羽栗橋上流

⑥荒戸橋

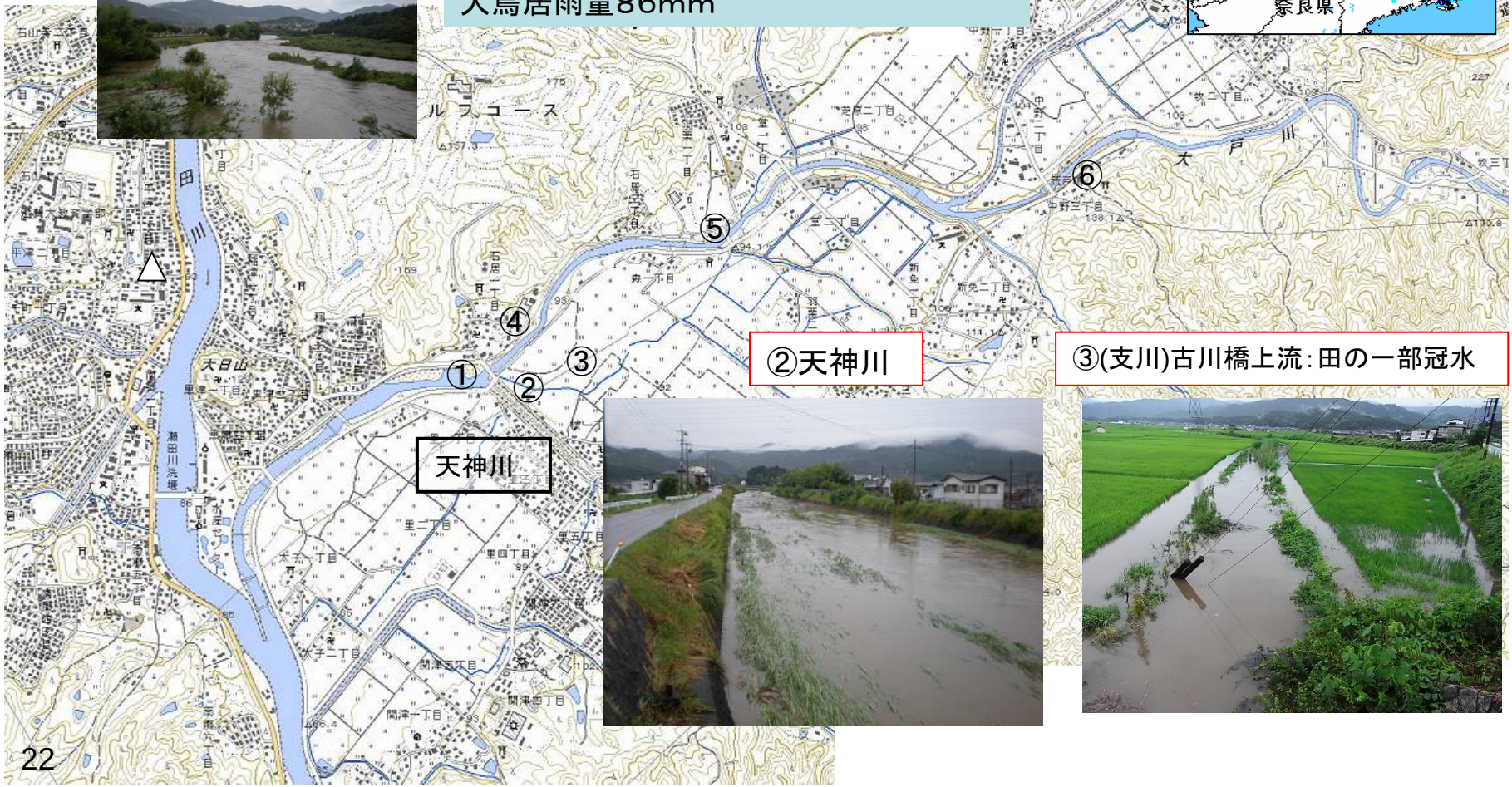
近畿地方雨量レーダー
【7月28日13:00現在】



①石居橋下流

平成20年7月28日（月）状況

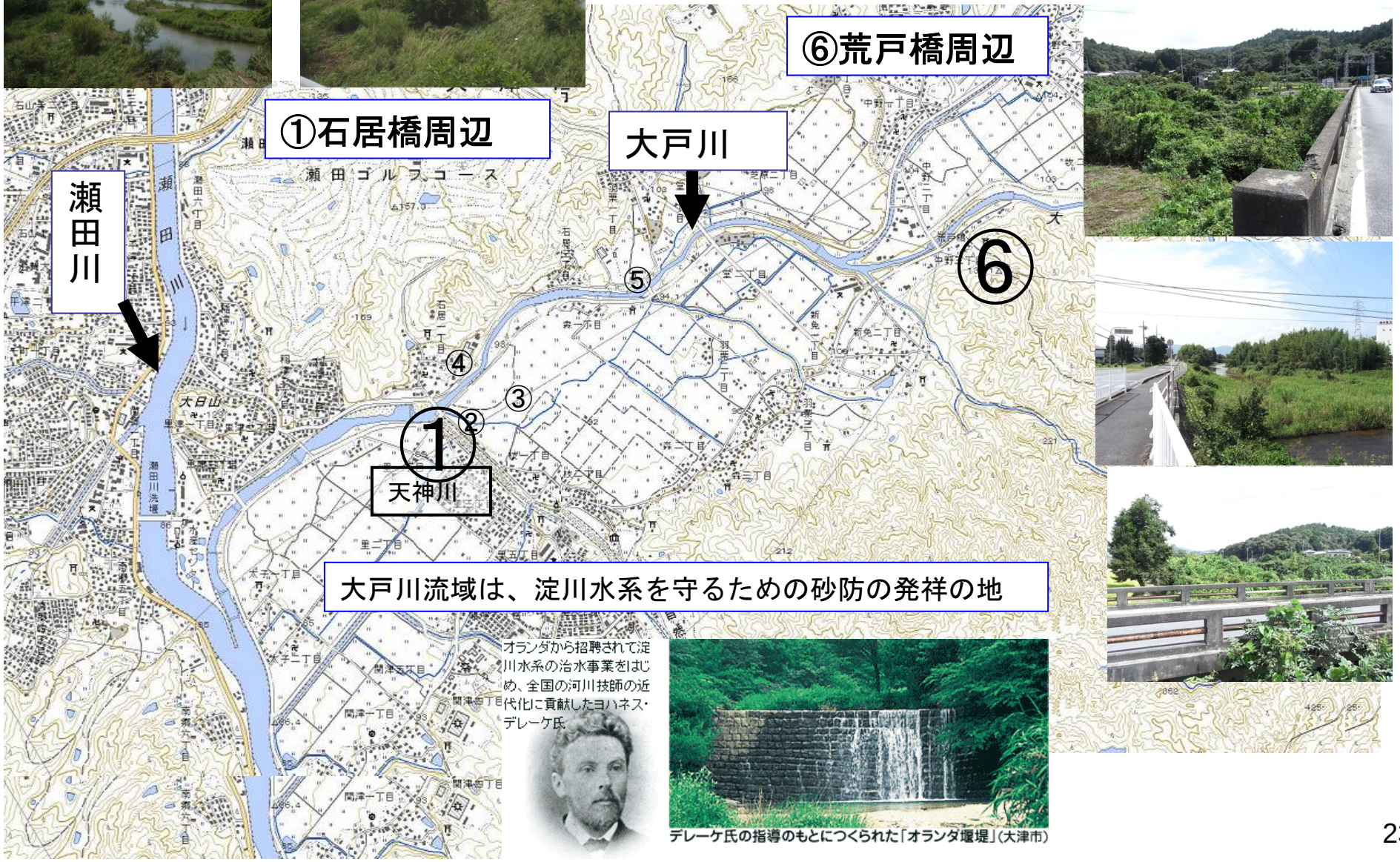
大鳥居雨量86mm



②天神川

③(支川)古川橋上流：田の一部冠水

非出水時の土砂堆積・雑草繁殖状態



デレーケ氏の指導のもとにつくられた「オランダ堰堤」(大津市)

早期に大戸川ダム建設を

今、やっと、国の河川整備計画（案）で大戸川ダムについて、流水型ダムとして整備をすることが記載されました。

いよいよ淀川水系河川整備計画が策定される重要な時期とお聞きしています。

是非とも、私ども、流域住民の意見をお聞き頂き、大戸川ダムの早期建設をお願いしたいと念願する次第です。

水没予定地（ダム骨材の集積地となっている移転後の大鳥居町の現況）

えぐられる河川（昭和57年　上田上芝原町）